

関連項目：教育活動プラン①

活躍の場を増やすことで自己有用感を高める

目的

本校の児童は指示されたことや決まっていることには取り組みますが、自分から判断し活動したり、よりよくするための工夫をしたりするといった自発的な面に課題が見られます。そこで、自己有用感を育むために児童個々が活躍できる場を設定することにしました。

内容

● 全校生で取り組むあいさつボランティア

本校では、以前からこの「あいさつボランティア」の取組を行っています。しかし、児童の意識の中でマンネリ化してきていたこと、また「あいさつする」という行動自体がなかなか広がっていかないことから、何点かの工夫を取り入れました。

一つ目は、「あいさつチャンピオン」の取組です。これは、自分から地域の方や来校者、保護者に対してのあいさつを広げていく意図で行いました。オープン参観日を含む期間に実施することで、児童の意欲が高まるよう配慮しました。

もう一つは、あいさつをする場所についてです。昨年度、新校舎建設および運動場の拡張工事が完了し、校門も増え新しくなりましたが、逆にあいさつボランティアに取り組む児童が散り散りになってしまい、以前のような活気がなくなってしまいました。そこで今年度は、具体的な場所はクラスで考えた上で行うこととしました。クラスごとにあいさつについて考えたことで、意識が向上してきています。また、毎日自発的にあいさつボランティアに取り組む児童も見受けられるようになりました。

● 「大好き林デー」の実践

これは、以前から取り組んでいた「ごみ0デー」に上記のあいさつ運動を合わせたものです。ともに「地域」に視点を置き自発的に取り組む内容です。「ごみ0活動」については登校中に落ちていたごみを各自が拾い集めて学校で回収するもので、参加した児童にはスタンプを押すようになっています。あいさつについては、「見守り隊」の方をはじめ登下校中に会う地域の方に、自分からあいさつをするといった内容です。それぞれ課題は見られますが、特に前者は「自分たちが林の町をきれいにしている。」といった自負があり、大変意欲的に取り組んでいます。



● 集会活動での司会進行 ～高学年としての意識を高めるために～

以前から、全校朝会などの集会活動の司会進行は担当委員会の児童が行っていましたが、それは「決められた台本を読む」程度のものでした。それをもう一度見直し、基本的なものをベースに自分たちの意見を取り入れていくこととしました。また、会を始める前に自分で考えた一言を付け加えるようにしました。こうすることで、「自分が会を進めている。」「自分たちで会を作り上げている。」といった達成感や高学年としての自覚を促し、「自分の一言がみんなの気持ちをひとつにした。」といった自己有用感にもつながってきています。



成果

本校の取組は、特別に新しく立ち上げるのではなく、既存の取組をブラッシュアップする形で取り組んでいます。その際、我々教師集団の視点を「自主的・自発的に取り組める『環境づくり』」に置き、極力自主性に任せるようにしたことで、児童の達成感や自己有用感が育ってきていると感じています。